

学習指導要領における道具の位置づけの変遷と民具との距離

熊本県博物館ネットワークセンター

原田 信敬

【キーワード】 学習指導要領、小学校社会科、民具

第一章 はじめに

小学校三年生の社会(かつては三・四年生)では昔の暮らしや道具を取り扱う授業が設定されており、歴史民俗系の博物館では小学校の授業での利用を想定した展示や教育普及活動が実施されている。その多くは昔のくらしや昔の道具などをタイトルに掲げており、全国的にみてもありふれた企画となっている。(1) そして、そのような企画において活用される資料は博物館に収蔵されている民俗資料(2)である。

博物館における民俗資料は、文化財制度の文脈やアカデミズムの文脈さらには学校教育の文脈など複数の文脈の影響を受けている。そのような文脈の複合性が現れているのが、民俗資料を用いて行われる小学校の授業利用を想定した企画であり、学校教育の文脈と民俗学のアカデミックな文脈が交錯することになる。

実際の展示では、学習指導要領における道具とアカデミックな対象としての民俗資料という位置づけが一つの資料に重なることになる。もちろん、資料の価値づけは本質的なものでなく、博物館のそれぞれの企画において都度規定されるものであるが、博学連携の当事者はその両者の差異に自覚的であるべきであろう。

このような問題意識から、本稿では小学校社会の学習指導要領における、昔の道具の取扱いとそれらを取り扱う言説に着目し、四度の学習指導要領改訂でどのように変化してきたのか検討するとともに、博物館の民俗資料の研究や理論的な裏付けのために常に参照されてきたアカデミックな概念である民具(3)について学史的な検討を行う。

学習指導要領の道具と民具という二つの用語について概念と範囲を分析することにより、両者がどのように重なっているのか、またはどのように違うのかを整理する。

第二章 学習指導要領における道具の位置づけ

第一節 学習指導要領の分析方法

現行の学習指導要領では、第三・四学年に昔の道具と暮らしに関する記述が確認できる。あくまで教材の一つとしての扱いに過ぎないが、現在文科省の審査を合格した三種類の教科書いずれも学習指導要領に基づき昔の道具に関する単元を設定している。

このような道具と暮らしに関する内容が明記されたのは、平成元年(一九八九年)に告示された学習指導要領(4)からでありそれ以降の学習指導要領にも引

き継がれてきた。平成二〇年(二〇〇八年)の改訂までは、第三・四学年で記述がまとめられていたが、平成二九年(二〇一七年)の改訂により第三学年での学習内容に位置づけられた。

本章では平成元年(一九八九年)以降引き継がれてきた、学習指導要領の道具に関する記述・言説とその変化について分析を行う。具体的には、小学校学習指導要領社会の第三・四学年の記述について、全体の構成と記述内容を表1で整理した。表1をもとに各学習指導要領の構成と内容について分析を進めていく。

第二節 学習指導要領の構成

学習指導要領は(1)目標(2)内容(3)内容の取扱い、の三つのセクションで構成されている。

(1)が三つの目標で構成されている点は平成元年(一九八九年)から現在まで共通しているが、その内容は平成二九年(二〇一七年)の改訂によって大きく変化した。平成元年(一九八九年)から平成二〇年(二〇〇八年)までの学習指導要領では、①地域社会の成員としての自覚、②地域社会を大切にす態度、③具体的資料の活用と考え表現する力という三つの目標が設定され、表現の変化があるものの約三〇年間はこの枠組みが維持された。一方で、平成二九年告示学習指導要領では、具体的資料を通して必要な情報を調べまとめる技能や社会課題に対する思考・判断力、主体的な問題解決や学習内容の社会的な還元などを強調した内容に変更されている。

(2)の内容は、(1)の目標を達成するために、何を題材にどのようなことを学習させるべきなのかがまとめられている。なお、道具に関する記述はいずれの学習指導要領でも(2)の内容に配置されている。

(3)内容の取扱いは(2)の補足であり、選択に関する規定や取り上げるべき詳細な事柄、必要とされる配慮などに関するセクションである。

また、小学校第三学年から第六学年までの学習指導要領の構成を俯瞰すると、身近な地域から始まり、都道府県、国、世界というように対象とする範囲を段階的に広げるといふ特徴がある。

第三節 道具に関する記述の変遷

学習指導要領の構成は前節で述べた通りであるが、本稿において問題としている道具に関する記述は第三・四学年の(2)内容に含まれている。したがって、学習指導要領における道具の位置づけは当該箇所の記事を分析することが妥当だと思われる。以下で道具に関する学習指導要領の記事を年代ごとに示す。

【平成元年告示】⁽⁵⁾

自分たちの市(区、町、村)を中心にした地域の人々の生活について、家屋や道具、交通などの移り変わりを中心に調べたりそれを年表にまとめたとして、地域の人々の生活は、およそ一〇〇年くらいの間大きく変わってきたことを理解できるようにするとともに、地域の文化財や年中行事に関心をもち、人々の願いについて考えることができるようにする。

【平成一〇年・一五年・二〇年告示】⁽⁶⁾

地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりにして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

【平成二九年告示】⁽⁷⁾

市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。(中略)

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。(後略)

第四節 道具に関する記述の分析

道具に関する記述は平成元年告示学習指導要領で初めて明記された。その後、平成一〇年(一九九九年)の改訂により文章の構成が変わり、平成二〇年告示学習指導要領まで引き継がれた。施行期間としては、平成一四年(二〇〇二年)から平成三〇年(二〇一八年)までの一六年間変更がなかったことになる。平成二九年(二〇一七年)の改訂では平成一〇年(一九九九年)からの記述を踏襲しながらも、大幅な変更が加えられている。

三つのバージョンを比較すると、①他の教材(家屋、道具、交通、文化財、年中行事など)と並置、②道具を調べることでのそれらが使われていたころの生活(暮らし)を学ぶという方法論はいずれのバージョンでも維持されている。

一方、平成元年告示学習指導要領で明示されていたおよそ一〇〇年という具体的な範囲は、平成一〇年度告示学習指導要領で古くから残る暮らしという伝統性を強調した表現に変更され、さらに平成二九年度告示学習指導要領では時期による違いという表現にとどめられた。

また、平成二九年告示学習指導要領では、思考力、判断力、表現力の習得の手段として生活の道具の学習が位置付けられたのも大きな変更点である。

第五節 考察

学習指導要領の道具に関する記述の変化について共通する点と相違点を整理した。端的にまとめると道具を学習する目的は、調査したものをまとめるといふ過程を重視する方向に変更されてきたが、生活の道具をしらべることで生

活を理解するという方法は一貫している。

この方法論は、後述する民具という言葉を創作し調査研究の対象としてきた民俗学の方法と重なる部分が少なくない。

一方、道具の取り扱いが初めて明記された平成元年(一九八九年)時点において、高度経済成長は約三〇年前の出来事であった。平成元年から約三〇年経過した現在、学習指導要領が取り扱う時間的な範囲は現在の方向に引き伸ばされた状況にある。

このような、範囲の伸長は平成元年(一九八九年)の告示の時点において想定していた一〇〇年という具体的な範囲のズレを生み出すことになった。具体的に言えば、平成元年(一九八九年)時点で想定していた一〇〇年前の道具は、平成二九年時点で約一三〇年前の道具となってしまうという問題である。対象の上限を例として取り上げると、明治二二年(一八八九年)の暮らしを想定していたものが、対象の上限が大正六年(一九一七年)になっている。

このような時代の経過へ対応する意図が学習指導要領の解説からも読み取れる。具体的には、平成二九年告示の学習指導要領解説において、それまで取り上げる時期として例示していた、地域の高齢者が子供の頃、父母が子供の頃、現在(8)という区分けを廃止し、電化製品が普及する前と普及した後(9)という新たな区分けを提示していることが挙げられる。

第三章 民具の概念と範囲

第一節 民具概念の検討方法

これまで小学校の学習指導要領における道具の位置づけを整理・分析してきたが、学習指導要領の道具をしらべることで生活を理解するという方法と、平成二九年告示学習指導要領の記述にみられる、区分け方法の転換は、民具を対象としてきた民俗学の方法や議論と共通性を見出すことが出来る。

そこで、本章では民具の概念と範囲について、学史的な変遷を整理する。

第二節 民具の考案

民具という言葉は、アチックミュージアムを主宰した渋沢敬三によって考案された言葉であり、その具体的な範囲を提示したのは、昭和十一年（一九三六年）に刊行された『民具蒐集調査要目』である。名前からもわかるとおり、実務的な手引書としての性格が強い。

同書の「はじめに」において「我々の同胞が日常生活の必要から技術的に作り出した身近卑近の道具」⁽¹⁰⁾として簡潔に民具を定義している。アチックミュージアムが示した定義と民具の範囲は、広く引用され民具研究の基礎を築いた。

同要目で示された民具の分類⁽¹¹⁾は、その道具の用途に応じて分類され、項目ごとに具体的な民具が例示されていた。ただし、要目で例示された民具だけでも民具の範囲とするには不足していた。その点については、渋沢も自覚的であり、「此の小冊子に収録いたしました民具は、私共が収集保存しようとする民具の範囲は大體斯う言うものであると言う目標を示したもので、集めて以つて研究の資に供し度いと思ふものがこれだけであるとの意味であります。」⁽¹²⁾と補足している。

また、「私共は今迄、この種の貴重な資料が、急激なる生活様式の改變と共に日に迫つて浜び眼にすること能はざるもの多きを憶ひ、微力を顧みず之を収集しその標本の保存に努力してまいりましたが（後略）」⁽¹³⁾とも述べているように、アチックミュージアムが想定していた民具は生活様式の改變によりうしなわれつつあるものであるという認識がうかがえる。

このような立場は、歴史を均質的な時間ではなくある轉換を設定し、それ以前に重点を置く態度でもある。渋沢の時代であれば、明治以降の社会の變化が轉換にあたり、それ以前の社会や文化を具体的な対象とするものであった。

ここで強調したいのは、民具という言葉が生み出された背景には、すでにうしなわれつつあるものを対象化しようとする思想が存在することである。そのよ

うな民具の範囲からは、うしなわれつつあるものとの連続性を持たない資料が排除される。

また、『民具蒐集調査要目』の定義において日常生活の必要上と明示するほどに、生活に拘泥していたことには注意を払いたい。

第三節 宮本常一『民具学の提唱』

宮本常一の民具に関する議論は『民具学の提唱』にまとめられており、民具について、渋沢敬三と民具について話し合った内容を紹介しつつ以下のように定義している。

一 民具は有形民俗資料の一部である。

二 民具は人間の手によって、あるいは道具を用いて作られたものであり、動力機械によって作られたものではない。

三 民具は民衆が、その生産や生活に必要なものとして作り出したもので、使用者は民衆に限られる。専門職人の高い技術によって作られたものはこれまで普通、工芸品、美術品などと言われ多くは貴族や支配階級の人々によって用いられた。これは民具と区別すべきである。

四 民具はその製作に多くの手続きをとらない。専門の職人が作るというよりも、素人または農業、林業、漁業などのかたわら製作しているものである。

五 民具は人間の手で動かせるものである。

六 民具の素材なるものは草木、動物、石、金属、土などで原則としては化学製品は含まない。

七 複合加工を含む場合は仕あげをするものが、素人または半玄人であるもの。

一番目の条件については、当時の文化財保護法で定められていた有形民俗資料に住居などが含まれていることから、民具がそれらを含まないことを前提とし、有形民俗資料と民具の包含関係を示している。五の条件についても同様に民具の範囲から家屋や施設などを除外するものである。このことについて、宮本常一は「次に民具は動かすことができ、持ち運びのできるものでなければならぬ。石垣とか井戸とか住居とかいったようなものは施設であって民具ではない。しかし船は動かすことが出来るが、手足を利用して運べるものということになる」と、漁船程度のもは民具の中に入れても、大きな船は民具とは言えないのではないか。といったようなことが主な話題であった。以上のようなことは渋沢先生ともたびたび討論しあったことがある。」⁽¹⁵⁾と述べている。

また、二、三、四、六、七は製作に関することである。また、民具は身体の延長として何らかの機能を持つものとして捉えているのも特徴である。

このような宮本常一の民具の定義は被支配階級(非常民)が自らの手で自製する道具を対象として、渋沢敬三がうしなわれつつあるものとして捉えた民具の範囲をより具体的な条件で絞り込んだものである。

第四節 古典的な民具観

民具概念について、その端緒となったアチックミュージアムの『民具蒐集調査要目』と宮本常一の『民具学の提唱』で示された定義を確認してきた。『民具蒐集調査要目』では分類ごとに具体的な民具を例示する形で民具の範囲を示している。一方、宮本常一はそのような民具の範囲を前提に据え、民具の範囲を論理的に再整理するとともに、これまでの収集調査に不足していた、民具に特化した研究方法を模索し民具の定義と分類を提示した。

宮本常一の民具に関する種々の論考は、分類方法や民具誌という研究手法を提示したという点で先進的なものであったが、彼が対象とした民具の範囲は、アチックミュージアムのもを引き継いでおり、民具がうしなわれつつあるもので

あるという認識は変化していない。また、両者が道具そのものではなく、それらをおして生活を明らかにしようとする姿勢も共通している。⁽¹⁶⁾

一方でうしなわれつつあるものを対象にした民具観について、近藤雅樹はそのような民具への態度を古典的な民具観として次のように指摘している。

古典的な民具観への固執は、文化変容のダイナミズムを見逃すことになりかねず、他者から隔絶し停滞している文化を賛美する誤謬を犯す危険が潜んでいるからである。また、現代人の生活の場には工業製品に置き換えられた生活用品ばかりが氾濫していて、もはや民具は存在せず、民具研究は成立しないとの錯覚に陥る恐れもある。(中略)民具研究には、世界文明の圏外に取り残された未開社会を対象とした土俗学とは異なる視点が必要である。⁽¹⁷⁾

事実『民具蒐集調査要目』の定義や宮本常一の定義いずれを採用してもそこから抜け落ちてしまうものが存在し、もはや民具は存在せずと言えるような状況になったのも事実である。それは、渋沢が活動した時代が遠くなればなるほど、彼らが収集してきた民具がうしなわれつつあるものからうしなわれたものへとシフトし、民俗学的な聞き取り調査の対象外となっていくことと無関係ではないだろう。

一方でこのような限界を乗り越えようとする試みが提示され続けてきた。具体的には、小谷方明の流通民具⁽¹⁸⁾や顕在民具と潜在民具の概念、さらに田邊悟の残存民具・残存民具・現代民具の分類と彼が民具の一生図と称したモデル⁽¹⁹⁾等があげられるだろう。次節ではそのような試みの一つとして和田正洲の論考を紹介する。

第五節 和田正洲 物質文化研究の拠点としての博物館

ここで取り上げるのは『日本民俗研究体系第5巻』に収められた造形伝承論⁽²⁰⁾という論考である。和田はこの論考で折口信夫が示した造形伝承という分類概念について民具との関係を中心に検討している。

和田の論考は三章建てとなっており、一章では折口が示した分類概念である造形伝承について検討している。二章では、民俗系博物館の開館とアチックミュージアム系の研究者の活躍によって、日本民俗学の弱点であった物質文化の研究が充足したとしつつも、大島暁雄、宮本常一、宮本馨太郎、中村たかをの民具の定義を俯瞰してそれぞれの長所と短所を整理し、概念の紛乱を指摘している。そして最後に分類概念である造形伝承の範囲を民具と施設に限定するのではなく、空間的構造を含めるのが適当だろうと結んでいる。

第三章では、博物館を物質文化研究の重要な拠点と位置づけ、宮本常一と岡正雄を引用しながら、両者が前提としている欧米近代技術流入以前の道具や技術のみで構成される社会がほとんど残っていないことを指摘し、変貌する民俗の中で技術文化を把握することの重要性を説いている。

和田は、学術用語としての民具の範囲を欧米近代技術流入以前に限定することなく、民俗(≠文化)が生成または変容する過程を明らかにするというアプローチを提示している。これはうしなわれつつあるものを対象化してきたアチックミュージアムや宮本常一の民具の定義とは根本的に異なるものである。

第六節 『民具研究ハンドブック』

和田のラディカルな議論と同時期に編纂された民具のテキストとして『民具研究ハンドブック』がある。このハンドブックは『民具調査ハンドブック』と併せて民具の収集整理・調査研究に携わる研究者や博物館の職員向けの実務的な手引書として昭和六〇年(一九八五年)に刊行された。同様の目的で発表された『民具蒐集調査要目』から四九年経過した時点で刊行された同書は、それまでの民具研究の成果と確立されてきた具体的な方法論が反映されており、研究者のみ

ならず文化財行政の分野や博物館においても広く参考とされてきた文献である。

実務的な手引書として編纂された同書において、民具の定義やその範囲に関する思弁的な記述は少ない。しかし、わずかではあるが、冒頭において民具の概念と民具研究の目的と意義がまとめられている。

同書では民具の概念について、アチックの『民具蒐集調査要目』の定義と分類を示しながら、その範囲が自製民具に限定されていることを指摘しつつ、特定の時間を限って民具を規定し、研究対象を限定することはできないと述べている。そして工業製品にも存在する民具のアイデアとパターンに注目し、次のような見解を示している。

「ブラックボックスのないものが民具であるといえる。」原始古代から現代、さらに未来にいたるまで一貫してかわらぬ、人間の生活上もつとも単純な構造をもった道具ということが出来よう。⁽²¹⁾

これは、戦後の民具研究をけん引してきた一人である岩井宏實によるものである。岩井は続けて民具研究の意義と目的を次のように規定している。

民具研究は民具そのものを研究するのではない。また単に伝承生活の中に民具を位置づけるのではない。具体的な民具を通して、その民具を製作した技術、その機能、それをどう人間が使ったか、その民具が他の民具とどうかかわったか、そしてどう変遷したか、その民具は人々の生活にどう影響を及ぼしたか、また次世代にどう伝承されていくかということが課題となる。すなわち民具をとおして日本人の生活文化の構造と体系、さらには精神構造まで追求しようとするものである。⁽²²⁾

そして、宮本常一の民具誌の方法、河岡武春の基本民具、歴史的考察、考古遺物・絵画資料の活用という具体的な研究方法を例示しながら、民具学を次のように意義付けている。

(前略)また、考古学的考察、文献史的考察、美術史的考察、技術史的考察と、それぞれ個別の視点と方法で考察されたものを組み合わせるというのではない。すなわち具体的な民具を通じて学際的研究が必要であり、ここに民具学の存在意義があるのである。(23)

『民具研究ハンドブック』では、それまでの民具概念が保持していた「うしなわれつつあるもの」すなわち特定の時間を限って民具を規定する態度を否定しながらも、共通の理解を前提に構造の単純さをもって民具とそれ以外の境界を引き直している。さらに、研究の課題を道具そのものの分類や解明ではないと断つたうえで、幅広い分析方法を例示することにより、アチックミュージ엄から始まった一連の民具研究の蓄積を現代に接続したといえる。

第七節 民具の誕生から概念の変容

第三章では民具の概念とその範囲について、その端緒となったアチックミュージ엄の『民具蒐集調査要目』およびその範囲を引き継ぎ独自の研究方法を提示した宮本常一の定義、その後の展開として、民具を時代的な限定から切り離すラディカルな議論を提示した和田正洲の議論、最後に文化財や博物館に大きな影響をあたえた『民具研究ハンドブック』の記述を確認してきた。

概観すると、民具の範囲は『民具蒐集調査要目』が発表された時点では「うしなわれつつあるもの」に限定されていた。一方、時代が下るにつれ、アチックミュージ엄が想定していた民具を対象とした学問的な営みが困難になり、概念の再検討が行われるようになった。第三章の後半において紹介した和田の論考と

『民具研究ハンドブック』での規定は、時間を限定する方法を手放すことによりそれまでの民具研究を現代的な問題に接続する動きであったと捉えることが出来る。そして『民具蒐集要目』から『民具研究ハンドブック』に至る議論のいずれにおいても民具は生活という言葉と共に語られており、民具は生活に隣接するものであるという認識が読み取れる。

注意したいことは、学史的に民具の概念とその範囲を俯瞰した場合、その端緒となったアチックミュージ엄の民具の概念と範囲の狭さが、懐古趣味的な近代批判ではないことである。むしろ、アチックミュージ엄の方法論はその時点におけるうしなわれつつあるものを具体的に分析することにより、逆説的にその時点における現在を対象化するものであった。

第四章 学習指導要領の道具と民具、博物館の民俗資料

第一節 学習指導要領の道具の特徴

第二章では、学習指導要領における道具の取り扱いについて分析を試み、以下の三つの事柄を導出した。

- ① 道具を学習する目的は、調査したものをまとめるという過程を重視する方向に変更されてきた。
- ② 道具をしらべることによって生活を理解するという方法。
- ③ 対象となる時間的範囲の伸長。

第二節 民具概念と範囲の変容

第三章では博物館の民俗資料と近似する民具の概念と範囲について学史的に検討を行った。第三章の結論として次の事柄を提示したい。

- ① ある転換以前に重点を置き民具を「うしなわれつつある」とする民具観は、後

の時代に再検討され「時間の限定」という方法を手放す試みが提示されてきた。

②生活に隣接するものとして民具を調べることで生活を明らかにするという方法論。

③民具の定義は民具とそれ以外の境界(基準)についての議論であり、民具がどのようなものであるかを概念的に説明することにより、具体的境界(基準)を暗示している。

第三節 学習指導要領の道具と民具の距離

一・二節で整理したとおり、学習指導要領と民俗学における民具研究は「道具から生活を理解する」という方法論を共有しているにもかかわらず、その対象範囲は一致しない。

何故ならば、学習指導要領では電化製品も対象に含まれており、『民具蒐集調査要目』や宮本常一の民具の定義、そして、『民具研究ハンドブック』の規定のいずれを採用したとしても、三種の神器(電気冷蔵庫、電気洗濯機、白黒テレビ)や3C(カラーテレビ、クーラー、カー)といった電化製品等は対象に含まれないためである。

このような学習指導要領の道具と民具の距離は、方法や目的から生じているのではなく、実際に授業や調査研究を組み立てる過程で適用される「なにを対象すべきか/対象とせざるべきか」という基準の差異だといえる。そしてこの基準は具体的に明文化できない類のものである。

民具では、自製したもの、自然素材のもの、構造が単純なものなどにその基準を求めてきたのに対して、学習指導要領では現在と過去との比較に資するか否かを基準とすることとなる。このような基準の差異が、という対象範囲の不一致を生み出している。⁽²⁴⁾

第四節 博物館の民俗資料とは何か

前節では、学習指導要領の道具と民具の距離について考察を行ったが、和田が「博物館は展示活動を通じて各自の学問の領域にとらわれず(後略)」⁽²⁵⁾と述べているとおり、博物館は民具だけを収集と調査研究の対象にしてきたわけではない。むしろ既存の民具概念にとらわれず、積極的に様々な資料を対象化しようとしてきた側面がある。武士田忠が地域博物館と民具に関する論考⁽²⁶⁾において「博物館・資料館で蒐集されているモノはそうした狭義の民具だけでなく人の生活の中で使われてきた道具全般、機械類、電化製品を含めている。」と述べているとおり、時間の限定を放棄する方法を博物館は実践してきた。

実際に熊本県博物館ネットワークセンターでも、電気洗濯機やテレビ、ラジオ、ゲーム機、携帯電話なども民俗資料として登録しており、展示をはじめとする様々な博物館活動で利用している。

このように博物館の民俗資料は一意に定められるものではなく、本稿で検討してきた民具や学習指導要領的な道具、さらには、民俗文化財といった複数の概念とその範囲を常に参照し、それらを止揚しながら民俗資料を規定し活用してきた。そのような実践的な概念の再検討の結果として、博物館の民俗資料が位置付けられるのではないだろうか。

第五章 終わりに

本稿では概念的な方向から、学習指導要領の道具と民具さらに博物館の民俗資料について検討した。

民俗資料の範囲をアカデミックな概念である民具に限定するのであれば、小學生に生活の道具などの時期による違いを語るために必要なモノが不足していると言わざるを得ないだろう。

『民具蒐集調査要目』から九七年、『民具研究ハンドブック』から三八年が経過し、その間にも生活や道具は変化している。

民具を対象とした調査研究も博物館の民俗セクションには必要である。一方

で学校教育や、近年民俗資料の活用が期待されている回想法などの福祉分野において、高度経済成長以後の生活の変化を対象とするニーズが生じている。このような現場が直面しているニーズへの対応は、一見するとアカデミックな定義の放棄に見えるかもしれないが、民具概念の再検討へ接続しうるものでもある。

第三章において確認してきた民具概念の再検討を実践的に行う場としての博物館の姿があり、従来の民具や民俗文化財の範囲だけでない資料の収集調査と活用が行われている。このような実態を鑑みると和田が指摘するような物質文化研究の重要な拠点として捉えることが出来るのではないだろうか。

現在、博物館での民俗研究が対象にしようと試みている高度経済成長期から約五〇年が経過し、また新たな対象が現れつつある。それらを博物館がどのように取り扱い、どのようなことを社会へ提示していくのかについても今後問われることになるだろう。⁽²⁷⁾

本文註

- (1) たとえば『博物館研究』vol.57 No.2に掲載された歴史系の展示二四二件のうち、二十四件がむかしのくらしや道具に関する展示であり、一割ほどを占めている。博物館研究の歴史には考古・歴史・民俗の展示が掲載されていることを考慮すると、博物館の民俗系セクションにとってある種定番のテーマとなっていることが伺える。
- (2) 本稿における民俗資料は、単純に博物館の民俗セクションが取り扱う資料として用いる。
- (3) 民具と民俗資料、文化財行政の分野で使用される有形民俗化財はいずれも同値のものではない。学術用語としての民俗資料は論者によってさまざまな定義があり、研究者間の共通理解はないのが現状である。民具は、本稿で整理分析したように、定義について早い段階から議論がなされてきたが、家屋や大型の施設のような不動産を含まない伝承的な道具を指す用語として用いられる場合が多い。有形民俗文化財は文化財保護法上の用語であり、衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で我が国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの(文化財保護法第二条第三項)と定義されている。この定義の特徴は、民具ではあまり想定されていない、家屋などの不動産を含んでいる点である。
- (4) 平成元年の改訂の特徴は、低学年時の理科・社会を廃止するとともに、生活科の新設を新設した点にある。そのため、既存の小学校社会科のカリキュラムは大幅に変更されることとなった。市町村レベルの地域の移り変わりについて道具や文化財などから調べる内容が追加された。
- (5) 文部省『小学校学習指導要領社会』(文部省、一九八九年)
- (6) 文部省『小学校学習指導要領社会』(文部省、一九九九年)
- (7) 文部省『小学校学習指導要領社会』(文部省、一九九九年)
- (8) 文部省『小学校学習指導要領社会』(文部省、二〇〇三年)
- (9) 文部省『小学校学習指導要領社会』(文部省、二〇〇八年)
- (10) 文部省『小学校学習指導要領社会』(文部省、二〇一七年)
- (11) 文部省『小学校学習指導要領社会』(文部省、二〇一七年)
- (12) 『民具蒐集調査要目』では民具を、衣食住に関するもの、生業に関するもの、通信運搬に関するもの、団体生活に関するもの、儀礼に関するもの、信仰とその行事に関するもの、娯楽遊技に関するもの、玩具、縁起物、等に分類し、各分類ごとに具体的な民具の名称と図が配されている。さらに、民具調査要目として、実際の調査での使用を前提とした質問の例文集がまとめられている。これは『民具蒐集調査要目』の前身にあたる『蒐集物目安』にはなかったものである。
- (13) アチックミュージ엄編『民具蒐集調査要目』(アチックミュージ엄、一九三六年)二頁
- (14) アチックミュージ엄編『民具蒐集調査要目』(アチックミュージ엄、一九三六年)一頁
- (15) 宮本常一『民具学の提唱』(未来社、一九七九年)七六頁
- (16) 宮本常一『民具学の提唱』(未来社、一九七九年)七五頁
- (17) 宮本常一『民具学の提唱』(未来社、一九七九年)一一頁において、「つまり民具研究の根本問題は民具の形態学的な研究にとどまらず、生活に関する技術、ひいては生態学的研究までに進むことに意味があると思う。」と述

べているとおり、民具そのものだけでなく、生活を研究対象とすることを意識している。

- (17) 近藤雅樹『民具研究の視点』(『講座日本の民俗学9民具と民俗』雄山閣、二〇〇二年)
- (18) 小谷方明『大阪の民具・民俗志』(文化出版局、一九八二年)
- (19) 田邊悟『民具学の歴史と方法』(慶友社、二〇一四年)
- (20) 和田正洲造形伝承論(『日本民俗学体系第5巻』國學院大學、一九八四年) 七二―三五頁
- (21) 岩井宏實他『民具研究ハンドブック』(雄山閣、一九七九年) 四頁
- (22) 岩井宏實他『民具研究ハンドブック』(雄山閣、一九七九年) 四頁
- (23) 岩井宏實他『民具研究ハンドブック』(雄山閣、一九七九年) 六頁
- (24) 学習指導要領の道具をA、民具をBとすると、両者の関係は、A∩Bという包含関係になっている。
- (25) 和田正洲「造形伝承論」(『日本民俗学体系第5巻』國學院大學、一九八四年) 二二三頁
- (26) 武士田「博物館の普及と民具」(『民具学事典』丸善書店、二〇二〇年) 二八―二九頁
- (27) 博物館の窮状が世に訴えられて久しいが、文化の保護保全を肯定する言説はマスメディアやインターネット上でもありふれており、一定の社会的正当性が認められているのが現状だろう。一方、博物館については、いわゆるハコモノ行政への批判、教養・啓蒙主義的な態度への批判、ポストコロナリズムの立場からの「展示の政治性」に関する批判、ピエール・ブルデューが『美術愛好』で分析した階級性の批判など様々な批判が展開されてきた。このような批判に対して、博物館を含む文化産業(行政)は、市民との対話を重視した実践をとおして自身をより公共的なものとして位置づけようとしてきた。「フォーラムとしての博物館」や「地域博物館」/「第三世代博物館」といった議論はそのような試みの一つであった。このような立場は本稿と重なるものである。一方、近年インターネット上で、文化資本の格差を博物館が拡大させていることへの批判が度々提示されている。例えば小山晃弘や御田寺圭(白饅頭)等の批判があげられる。

https://twitter.com/akihiro_koyama/status/1437329502862938121?i=c

<https://note.com/terake107/n/na8978c3e4972> 二〇二三年二月十五日確認

白饅頭日誌: 9月13日「あの日、美術館で見た風景」

引用文献(五〇音順)

- アチックミュージアム編『民具蒐集調査要目』(アチックミュージアム、一九三六年)
- 岩井宏實他『民具研究ハンドブック』(雄山閣、一九七九年)
- 近藤雅樹『民具究の視点』(『講座日本の民俗学9民具と民俗』雄山閣、二〇〇二年)
- 武士田忠「博物館の普及と民具」(『民具学事典』丸善書店、二〇二〇年)
- 宮本常一『民具学の提唱』(未来社、一九七九年)
- 文部科学省『小学校学習指導要領』(文部科学省、一九九九年)
- 文部科学省『小学校学習指導要領』(文部科学省、二〇〇八年)
- 文部科学省『小学校学習指導要領』(文部科学省、二〇一七年)
- 文部省『小学校学習指導要領』(文部省、一九九九年)
- 文部省『小学校学習指導要領』(文部省、一九八九年)
- 和田正洲「造形伝承論」(『日本民俗研究体系第5巻』國學院大學、一九八四年)

表 1 「学習指導要領の構成と記述」

| | 目標 | 内容 | 内容の取扱い |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成元年 | <p>(1) 自分たちの生活は、地域にある公共施設の働きや地域の人々の協力によって支えられていることを理解できるようにし、地域社会の成員としての自覚を育てる。</p> <p>(2) 地域の人々の生活は、自然環境と結び付いて営まれており、地域によって消費生活や生産活動に特色があることや人々の生活の様子は変化していることを理解できるようにし、地域社会を大切にする態度を育てる。</p> <p>(3) 地域における社会的事象を具体的に観察し、地図その他の具体的資料を効果的に活用することができるようになるとともに、地域社会の社会的事象の特色を考えるようにする。</p> | <p>(1) 自分たちの地域の人々が、公民館、図書館などの公共施設を利用している様子及び地域の清掃や交通安全などの活動に参加している様子を観察したり調べたりして、地域の人々は協力して生活の向上や住みよい環境づくりに努力していることに気付くようにするとともに、自分も地域社会の一員として協力できるようにする。</p> <p>(2) 自分たちの市(区、町、村)の特徴ある地形、土地利用の様子や集落の分布、交通の様子などについて観察したり地図に表したりして、地域の人々の生活は自然環境と深い関係があることや場所によって人々の生活には違いがあることを理解できるようにする。</p> <p>(3) 自分たちの市(区、町、村)を中心にした地域の商店や商店街の様子について調べて、地域の人々は品質や価格などを考えて購入していることや、商店や商店街などでは販売について工夫していることを理解できるようにするとともに、自分たちの地域は消費生活を通して広く国内の他地域などとかかわりがあることに気付くようにする。</p> <p>(4) 自分たちの市(区、町、村)を中心とした地域の重要な生産活動は、自然環境を生かしながら営まれていること及び原料の入手や生産品の販売などの面で工夫がなされていることについて調べて、地域の生産活動の特色と工夫について理解できるようにするとともに、自分たちの地域は生産活動を通して広く国内の他地域などとかかわりが</p> | <p>(1) 内容の(1)については、生活科との関連を考慮して、自分と地域の人々や地域社会とのかかわりについて考えさせるよう配慮する必要がある。</p> <p>(2) 内容の(3)については、地域の消費生活の特色を消費者の立場から考えさせるよう配慮する必要がある。</p> <p>(3) 内容の(3)及び(4)については、地域の生活が国内の他地域だけではなく、外国ともかかわりがあることに気付かせるよう配慮するものとする。その際、児童に無理のない取扱いをする必要がある。</p> |

| | | | |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | <p>あることに気付くようにする。</p> <p>(5) 自分たちの市(区、町、村)を中心にした地域の人々の生活について、家屋や道具、交通などの移り変わりを中心に調べたりそれを年表にまとめたりして、地域の人々の生活は、およそ100年くらいの間大きく変わってきたことを理解できるようにするとともに、地域の文化財や年中行事に関心をもち、人々の願いについて考えることができるようにする。</p> | |
| 平成10年 | <p>(1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。</p> <p>(2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。</p> <p>(3) 地域における社会的事象を観察、調査し、地図や</p> | <p>(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。</p> <p>ア 身近な地域や市(区、町、村)の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子など</p> <p>(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。</p> <p>ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。</p> <p>イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとのかかわり</p> <p>(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学したり</p> | <p>(1) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア イについては、農家、工場、商店などの中から選択して取り上げる。その際、地域の生産活動を取り上げる場合には自然環境との関係について、販売を取り上げる場合には消費者としての工夫について、それぞれ触れるようにすること。</p> <p>イ イについては、国内の他地域だけではなく、外国ともかかわりがあることに気付くよう配慮すること。その際、児童に無理のない取扱いをすること。</p> <p>(2) 内容の(3)の飲料水、電気、ガスについては、それらの中から選択して取り上げるものとする。また、廃棄物の処理については、ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げ、その際、廃棄物を資源として活用していることについても扱うようにする。</p> <p>(3) 内容の(4)の災害については、火災、風水害、地震</p> |

| | | | |
|--|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。</p> | <p>調査したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。</p> <p>ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり</p> <p>イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。</p> <p>(4) 地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について、次のことを見学したり調査したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考えるようにする。</p> <p>ア 関係の諸機関が相互に連絡を取り合いながら緊急に対処する体制をとっていること。</p> <p>(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。</p> <p>ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子</p> <p>イ 地域に残る文化財や年中行事</p> <p>ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例</p> <p>(6) 県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする。</p> | <p>などの中から選択して取り上げ、事故については、交通事故や盗難を取り上げるものとする。</p> <p>(4) 内容の(5)のウの具体的事例については、地域の開発、教育、文化、産業などの発展に尽くした先人の中から選択して取り上げるものとする。</p> <p>(5) 内容の(6)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア ウの県(都、道、府)内の特色ある地域については、伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域と地形から見て特色ある地域を含めて取り上げること。</p> <p>イ エについては、我が国や外国には国旗があることを理解させ、それを尊重する態度を育てるよう配慮すること。</p> |
|--|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | <p>ア 県(都, 道, 府)内における自分たちの市(区, 町, 村)の地理的位置</p> <p>イ 県(都, 道, 府)全体の地形や主な産業の概要, 交通網の様子や主な都市の位置</p> <p>ウ 産業や地形条件から見て県(都, 道, 府)内の特色ある地域の人々の生活</p> <p>エ 人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり</p> | |
| 平成 15 年 | <p>(1) 地域の産業や消費生活の様子, 人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし, 地域社会の一員としての自覚をもつようにする。</p> <p>(2) 地域の地理的環境, 人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし, 地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。</p> <p>(3) 地域における社会的事象を観察, 調査し, 地図や各種の具体的資料を効果的</p> | <p>(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区, 町, 村)について, 次のことを観察, 調査したり白地図にまとめたりして調べ, 地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。</p> <p>ア 身近な地域や市(区, 町, 村)の特色ある地形, 土地利用の様子, 主な公共施設などの場所と働き, 交通の様子など</p> <p>(2) 地域の人々の生産や販売について, 次のことを見学したり調査したりして調べ, それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。</p> <p>ア 地域には生産や販売に関する仕事があり, それらは自分たちの生活を支えていること。</p> <p>イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとのかかわり</p> <p>(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水, 電気, ガスの確保や廃棄物の処理について, 次のことを見学したり調査したりして調べ, これらの対策や事業は地域の人々の</p> | <p>(1) 内容の(2)については, 次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア イについては, 農家, 工場, 商店などの中から選択して取り上げる。その際, 地域の生産活動を取り上げる場合には自然環境との関係について, 販売を取り上げる場合には消費者としての工夫について, それぞれ触れるようにすること。</p> <p>イ イについては, 国内の他地域だけではなく, 外国ともかかわりがあることに気付くよう配慮すること。その際, 児童に無理のない取扱いをすること。</p> <p>(2) 内容の(3)の飲料水, 電気, ガスについては, それらの中から選択して取り上げるものとする。また, 廃棄物の処理については, ごみ, 下水のいずれかを選択して取り上げ, その際, 廃棄物を資源として活用していることについても扱うようにする。</p> <p>(3) 内容の(4)の災害については, 火災, 風水害, 地震などの中から選択して取り上げ, 事故については, 交通事</p> |

| | | | |
|--|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。</p> | <p>健康な生活の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。</p> <p>ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり</p> <p>イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。</p> <p>(4) 地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について、次のことを見学したり調査したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考えるようにする。</p> <p>ア 関係の諸機関が相互に連絡を取り合いながら緊急に対処する体制をとっていること。</p> <p>(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。</p> <p>ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子</p> <p>イ 地域に残る文化財や年中行事</p> <p>ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例</p> <p>(6) 県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする。</p> <p>ア 県(都、道、府)内における自分たちの市(区、町、村)</p> | <p>故や盗難を取り上げるものとする。</p> <p>(4) 内容の(5)のウの具体的事例については、地域の開発、教育、文化、産業などの発展に尽くした先人の中から選択して取り上げるものとする。</p> <p>(5) 内容の(6)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア ウの県(都、道、府)内の特色ある地域については、伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域と地形から見て特色ある地域を含めて取り上げること。</p> <p>イ エについては、我が国や外国には国旗があることを理解させ、それを尊重する態度を育てるよう配慮すること。</p> |
|--|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | | |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | <p>の地理的位置</p> <p>イ 県(都, 道, 府)全体の地形や主な産業の概要, 交通網の様子や主な都市の位置</p> <p>ウ 産業や地形条件から見て県(都, 道, 府)内の特色ある地域の人々の生活</p> <p>エ 人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり</p> | |
| 平成 20 年 | <p>(1) 地域の産業や消費生活の様子, 人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし, 地域社会の一員としての自覚をもつようにする。</p> <p>(2) 地域の地理的環境, 人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし, 地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。</p> <p>(3) 地域における社会的事象を観察, 調査するとともに, 地図や各種の具体的</p> | <p>(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区, 町, 村)について, 次のことを観察, 調査したり白地図にまとめたりにして調べ, 地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。</p> <p>ア 身近な地域や市(区, 町, 村)の特色ある地形, 土地利用の様子, 主な公共施設などの場所と働き, 交通の様子, 古くから残る建造物など。</p> <p>(2) 地域の人々の生産や販売について, 次のことを見学したり調査したりして調べ, それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。</p> <p>ア 地域には生産や販売に関する仕事があり, それらは自分たちの生活を支えていること。</p> <p>イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとのかかわり</p> <p>(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水, 電気, ガスの確保や廃棄物の処理について, 次のことを見学, 調査したり資料を活用したりして調べ, これらの対策や事業は</p> | <p>(1) 内容の(1)については, 方位や主な地図記号について扱うものとする。</p> <p>(2) 内容の(2)のイについては, 次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア 生産については, 農家, 工場などの中から選択して取り上げること。</p> <p>イ 販売については, 商店を取り上げ, 販売者の側の工夫を消費者の側の工夫と関連付けて扱うようにすること。</p> <p>ウ 国内の他地域などについては, 外国とのかかわりにも気付くよう配慮すること。</p> <p>(3) 内容の(3)については, 次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア 飲料水, 電気, ガスについては, それらの中から選択して取り上げ, 節水や節電などの資源の有効な利用についても扱うこと。</p> <p>イ 廃棄物の処理については, ごみ, 下水のいずれか</p> |

| | | | |
|--|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。</p> | <p>地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。</p> <p>ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり</p> <p>イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。</p> <p>(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。</p> <p>ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。</p> <p>イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。</p> <p>(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや心を考えるようにする。</p> <p>ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子</p> <p>イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事</p> <p>ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例</p> <p>(6) 県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を</p> | <p>を選択して取り上げ、廃棄物を資源として活用していることについても扱うこと。</p> <p>(4) 内容の(4)の災害については、火災、風水害、地震などの中から選択して取り上げ、事故の防止については、交通事故などの事故防止や防犯を取り上げるものとする。</p> <p>(5) 内容の(3)及び(4)にかかわって、地域の社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うものとする。</p> <p>(6) 内容の(5)のウの具体的事例については、開発、教育、文化、産業などの地域の発展に尽くした先人の中から選択して取り上げるものとする。</p> <p>(7) 内容の(6)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア ウについては、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域を取り上げること。その際、伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域を含めること。</p> <p>イ エについては、我が国や外国には国旗があることを理解させ、それを尊重する態度を育てるよう配慮すること。</p> |
|--|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | | |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | <p>活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする。</p> <p>ア 県(都、道、府)内における自分たちの市(区、町、村)及び我が国における自分たちの県(都、道、府)の地理的位置、47都道府県の名称と位置</p> <p>イ 県(都、道、府)全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置</p> <p>ウ 県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活</p> <p>エ 人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり</p> | |
| 平成 29 年 | <p>社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 身近な地域や市区町村の地理的環境，地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子，地域の様子の移り変わりについて，人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに，調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまと</p> | <p>(1) 身近な地域や市区町村(以下第2章第2節において市という。)の様子について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア)身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。</p> <p>(イ)観察・調査したり地図などの資料で調べたりして，白地図などにまとめること。</p> <p>イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア)都道府県内における市の位置，市の地形や土地利用，交通の広がり，市役所など主な公共施設の場所と働き，古くから残る建造物の分布などに着目して，身近な地域や市の様子を捉え，場所による違いを考え，表現すること。</p> | <p>(1) 内容の(1)については，次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア 学年の導入で扱うこととし，アの(ア)については，自分たちの市に重点を置くよう配慮すること。</p> <p>イ アの(イ)については，白地図などにまとめる際に，教科用図書地図(以下第2章第2節において地図帳という。)を参照し，方位や主な地図記号について扱うこと。</p> <p>(2) 内容の(2)については，次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア アの(ア)及びイの(ア)については，事例として農家，工場などの中から選択して取り上げるようにすること。</p> <p>イ アの(イ)及びイの(イ)については，商店を取り上げ，他地域や外国との関わりを扱う際には，地図帳などを使用して都道府県や国の名称と位置などを調べるよ</p> |

| | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>める技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。</p> <p>(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。</p> | <p>(2) 地域に見られる生産や販売の仕事について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア)生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。</p> <p>(イ)販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。</p> <p>(ウ)見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア)仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。</p> <p>(イ)消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。</p> <p>(3) 地域の安全を守る働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア)消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を</p> | <p>うにすること。</p> <p>ウ イの(イ)については、我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮すること。</p> <p>(3) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア アの(ア)の緊急時に対処する体制をとっていることと防止に努めていることについては、火災と事故はいずれも取り上げる。その際、どちらかに重点を置くなど効果的な指導を工夫すること。</p> <p>イ イの(ア)については、社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うとともに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。</p> <p>(4) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア アの(イ)の年表などにまとめる際には、時期の区分について、昭和、平成など元号を用いた言い表し方などがあることを取り上げる。</p> <p>イ イの(ア)の公共施設については、市が公共施設の整備を進めてきたことを取り上げる。その際、租税の役割に触れること。</p> <p>ウ イの(ア)の人口を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること。</p> | <p>うにすること。</p> <p>ウ イの(イ)については、我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮すること。</p> <p>(3) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア アの(ア)の緊急時に対処する体制をとっていることと防止に努めていることについては、火災と事故はいずれも取り上げる。その際、どちらかに重点を置くなど効果的な指導を工夫すること。</p> <p>イ イの(ア)については、社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うとともに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。</p> <p>(4) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア アの(イ)の年表などにまとめる際には、時期の区分について、昭和、平成など元号を用いた言い表し方などがあることを取り上げる。</p> <p>イ イの(ア)の公共施設については、市が公共施設の整備を進めてきたことを取り上げる。その際、租税の役割に触れること。</p> <p>ウ イの(ア)の人口を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。

(イ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。

(4) 市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。